

【個人研究】

3才児対象の親子集団活動の意義について

小原伸子*

A Study on the Meaning of Group Activities for Children and Their Mothers

Nobuko Obara

In this paper, I report the practice activity based on Relationship-Trialectics (founded by professor Kohei Matumura).

I have been studying the theory of the Science of Relationships and I, as leader, applied the theory to group activities for children and their mothers at Kazo community center (1993～) and Kisaimache community center (1996～).

The main purpose of the report is as follow:

1. to explain about the meaning and characteristic of the group activities for children and their mothers.

はじめに

3才児対象の親子の集団指導を始めて、今年で16年目になる。⁽¹⁾ほとんどの幼児たちが、4歳になると幼稚園に通い、この時点から、同年齢集団体験のスタートとなる。共働き家庭の子どもは、もっと小さいうちから保育園にかよひ、集団体験ははやい。組織的な集団として幼稚園・小学校・中学校・高校・・・さらに、おけいごとや塾や部活などがあり、これらの集団は、それぞれの目的や、目指す方向に向かって、集団の創られ方が異なり、それぞれの目的や方向に即した、人格形成が育つ。

筆者らが、始めた3才児対象の親子の集団指導は、それらの集団を体験する前に、「自

己も人も物も生かした状況を志向する」ことに価値を置いた集団づくり（接在共存集団）を体験してほしいという思いからはじめたものである。この接在共存集団は、どの年代や組織集団でもそのことに価値を置いて目指すならば成立させることができるが、親子で共に育ち合うという時期は、基本的な生活習慣がほぼできあがり、自我の確立ができ、自己と人とのあり方が相対的に独立できるようになり、さらに、同年齢の子と遊びたいという内面的発達と、まだ親（主に母親）とも離れたくない気持ちが揺れ動く3歳児のこの時期が適していると考えられる。

「親子充実—親子共存—親子分化」と細かく過程をとらえてかかわれる時期でもある。

筆者は、これらの実践体験を地域に広めるために、5回シリーズで「3才児対象・親子の集団遊び」を1993年から試みている。これ

* おばら のぶこ 文教大学人間科学部生涯教育専修

を考案するきっかけとなったのは、1986年三郷市教育委員会主催の「3才児のお母さん学級」(企画・総括者秋山胖先生)に10回シリーズの中で5回目に、1987年同主催・同企画6回シリーズの中の2回目に、1988年同じく6回シリーズの中の2回目と3回目に「親子で遊ぼう」というテーマで共に創り上げていく喜びの体験が育つ親子一緒に過ごすカリキュラムを担当した時である。当時の(今もそうしている所が多いが)「3才児のお母さん学級」は、母親だけ勉強し、子どもたちは、その時間帯、別室で保育者に、預けられて遊ぶという形式で、親から無理に離されて不安を育てる場所になってしまい、本来子どものための勉強なのに、子どもが落とされていると感じたことである。それなら、3才児の発達の特徴である同年齢集団とも遊び、母子充実・母子共存・母子分化も考えて、全てを親子で一緒に遊ぶ活動にして、共に創り上げていく活動の中で、我が子や他の親子を観察しながら、3才児のことを体験的に学んでいく方法をとってもいいのではないかと考えたのである。

この考えに賛同してくれたのは、加須市の中央公民館であった。1993年から5回シリーズで実施し、毎年行っている。さらに、1996年から騎西町の中央公民館でも実施している。

5回という限られた回数の中で、親も子ども友達を見つけ、仲良くなるということは、むずかしいが、この活動を共に体験したことが、交流するきっかけになることを期待している。また、3才児の親子が他の親子集団の中で集団体験をすることにより、閉鎖された親子関係のあり方から、いろいろの親子のいることを知り、地域へ社会へと広げてとらえる親子関係へと変わるきっかけをつくらんと考える。

本研究は、この3才児の親子で遊ぶ集団活動の意義について明らかにするものである。

1. 親子集団の捉え方

筆者は、関係学理論(創始者松村康平)を基盤に集団を捉え、活動を展開している。

関係学理論の立場とは、『人間は「関係的

存在」であり、始源的、根源的な関係単位は、「自己」「人」「物」である。人間は、たとえ、「関係」を自覚することなく行為しても、その生活が存続し発展していくのは、その基盤に「関係状況」が成立し、展開するからである。関係状況における「自己」とは、内在的、内接的、接在的の3つのかかわり方が可能な機能的存在、「人」とは、内接的、接在的、外接的の3つのかかわり方が可能な現実的存在、「物」とは、接在的、外接的、外在的の3つのかかわり方が可能な実在的存在である。』⁹⁾『関係学の研究は、人間の根源的な、自己、人、物の接在共存関係状況の発展を志向して、進められる。関係学の主要な研究課題は、接在共存関係状況の構造化をもたらし、相対的に独立して連担可能な活動領域を明らかにして、その活動を促進することにある。』⁹⁾という考えに基づいて、親子参加の集団において、親も子ども共に振る舞う活動を通して、参加者集団の一員として今この集団を共に創り上げていく体験(接在共存関係状況)を志向していくことを目指している。

関係学における自己構造図と起動点から述べると、自己構造図では、図における斜線の部分である、Sspoの領域(統合的自己)を顕在化させることであり、起動点で言うと、起動点d、e、f、を成立展開させることである。(図1)

L: 監督 Situ: 状況
S: 自己 P: 人 O: 物 起動点: a~i

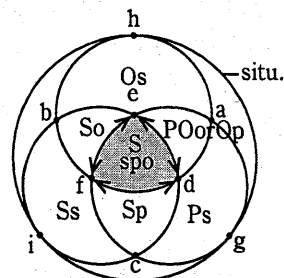


図1

自己構造図
Ss: 自己的自己 Sp: 自己的人
Ps: 人的自己 So: 自己的物
Os: 物的自己 PO or OP: 人的物および物的人
Sspo: 統合的自己

2. 5回シリーズ活動の経緯

(1) 1993年度

- 1) 「親子であそぶ集団あそび」
- ① 主催：加須市中央公民館
 - ② 日程：10/2, 10/16, 10/23, 11/6, 11/8
 - ③ 参加者：親子15組（3才児対象として募集したが、実際は、2才の幼児も数組）とリーダー5名（文教大学幼児集団研究会のリーダー）
 - ④ 場所：中央公民館30畳の部屋

(2) 1994年度

- 1) 「親子であそぶ集団あそび」
- ① 主催：加須市中央公民館
 - ② 日程：6/18, 6/25, 7/2, 7/16, 7/30
 - ③ 参加者：親子15組（去年の2才の親子も参加 3才児対象と募集の時に願います）とリーダー5名（文教大学幼児集団研究会のリーダー、去年の体験者3名）
 - ④ 場所：中央公民館30畳の部屋

(3) 1995年度

- 1) 「親子であそぶ集団あそび」
- ① 主催：加須市中央公民館
 - ② 日程：6/3, 7/1, 7/15, 7/29, 8/5
 - ③ 参加者：親子15組（体験2年目の親子2組）とリーダー5名（文教大学幼児集団研究会のリーダー、体験者3名）
 - ④ 場所：中央公民館大ホール

(4) 1996年度

- 1) 「親子で遊ぼう」
- ① 主催：騎西町中央公民館
 - ② 日程：1/27, 2/3, 2/10, 3/2, 3/9
 - ③ 参加者：親子25組（2才児4才児の親子が数組、後は3才児の親子）とリーダー5名（文教大学幼児集団研究会のリーダー、体験者4名）
 - ④ 場所：中央公民館ホール

2) 「親子であそぶ集団あそび」

- ① 主催：加須市中央公民館
 - ② 日程：6/1, 6/15, 6/29, 7/6, 7/13
 - ③ 参加者：親子15組（下の子が3才になって参加親が2回目という親子1組）とリーダー5名（文教大学幼児集団研究会のリーダー、先回の体験者4名）
 - ④ 場所：中央公民館大ホール
- 3) 「親子で遊ぼう」
- ① 主催：騎西町中央公民館
 - ② 日程：9/21, 9/28, 10/5, 10/12, 10/19
 - ③ 参加者：30組（先回の参加者5組下の子をつれての参加者4組）とリーダー5名（文教大学幼児集団研究会のリーダー、体験者2名）
 - ④ 場所：中央公民館ホール（1・2回目）老人館80畳の部屋（3回目以降）

3. 5回シリーズにおける活動のねらい

(1) 活動のねらい

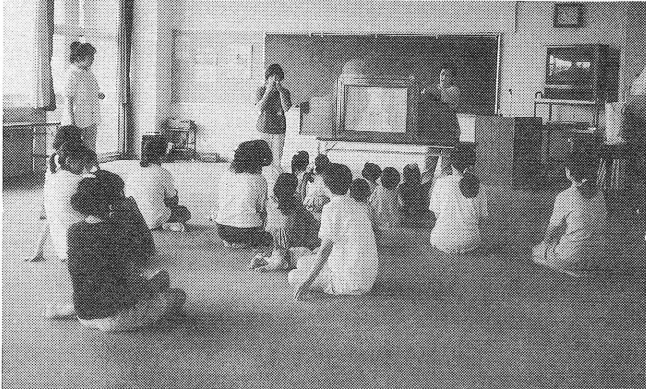
- ① 親子で一緒にできる遊びを集団活動体験の中で見つける。→親子充実体験
また、活動の中に親子での相談活動場面を用意して、共に創り出す体験を育てる。→親子共存体験
- ② いろいろの親子のいることを知り、親子も友達を見つける。→子育てネットワークづくりを目指す。
- ③ 親は子を、集団を通して相対的に独立した個として見ることに気づき、今までとは違うかかわり方の可能性を発見する。
→子の今をしっかりと見つめ、生き生きと活動している瞬間を共に振る舞いながら発見するかかわりを育てる。
- ④ 集団の中で大型紙芝居を見る体験。→集団共通体験
- ⑤ ルール性のある集団遊びの体験を通して、集団の楽しさを味わう。
- ⑥ 親子共有体験を通して、3才児の発達的特徴を押さえ、親子のかかわり方の可能性

表1 1995年加須中央公民館「親子であそぼう」5回シリーズ

回	第 1 回	第 2 回	第 3 回
年月日	'95. 6. 3 (土)	'95. 7. 1 (土)	'95. 7. 15 (土)
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いを楽しむ ・ はじめての場所になれる ・ 1つ1つていねいに、ゆっく り方向性を伝えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おかあさんと一緒に集団の中 でふるまいながら集団の楽し さを味わう ・ 今回は主に親子でできる体操 を伝える ・ 1回目に重ねながら、集団の ルールを理解していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おかあさんと一緒に集団の中 でふるまいながら集団の楽し さを味わう ・ 今回は主に製作活動を取り入 れる ・ 先回との活動を重ねながら新 しいことも加えて集団のルー ルを理解し楽しむ
活 動 内 容	<p>I みんなでまろく輪になる</p> <p>① ぞうさんのようにノッシ ノッシと手をつないで右回 り、ひよこさんのようにピ ピと言いながら左回り</p> <p>② 「ひらいたひらいた」で 輪を小さくしたり大きくし たりする</p> <p>II 朝のあいさつ</p> <p>足をそろえ、手は両脇にお 背中をピッとのはずあいさつ のポーズを伝え「おはようご ざいます」とみんなで言う。 みんなで拍手をする。</p> <p>III 名前呼び活動</p> <p>① 呼ばれた親子（「～ちゃ んとおかあさん」）は返事 をしたその場所にL1がカー ドをとどける</p> <p>② カードにシールをはり、 L1にもどす。幼児たちが 中央のL1にもどしにくる</p> <p>③ 次に名前を呼び、呼ばれ たら名札をとりに行く。次 回から入口の所にカードと 名札を置いておくことを伝 え各自でシールをはり、名 札をつけることを伝える。</p>	<p>I みんなでまろく輪になる。</p> <p>① ぞうさんのようにノッシ ノッシと歩く。</p> <p>② ねずみさんのようにチュ チュと歩く。</p> <p>③ お馬さんのようにパッカ パッカと歩く。</p> <p>II 朝のあいさつ</p> <p>① あいさつのポーズを伝え る</p> <p>② みんなで「おはようござ います」を言う。</p> <p>③ みんなで拍手</p> <p>III 名前呼び活動</p> <p>① 名前を呼ばれたら返事を して、親子で動物のポーズ をすることを伝える。</p> <p>② 親子で何の動物になるか 相談する。</p> <p>③ 決まったことを全員に確 認して、お名前呼びをする （「～ちゃんとおかあさん」）</p> <p>④ 親子のポーズの写真をと る。みんなで拍手</p>	<p>I みんなでまろく輪になる</p> <p>① ぞうさんのように歩く</p> <p>② ねずみさんのように歩く</p> <p>③ お馬さんのように歩く</p> <p>④ 「ひらいたひらいた」を する</p> <p>II 朝のあいさつ</p> <p>III 名前呼び活動</p> <p>① 動物のポーズの相談</p> <p>② 1組ずつ呼んでいく</p> <p>③ フラフープで焦点化し、 写真をとる。</p> <p>④ みんなで「ハイポーズ」 という。</p> <p>⑤ 写真をとる。</p> <p>⑥ 何のポーズかきく。拍手 をする。</p>

第4回	第5回	
'95. 7. 29 (土)	'95. 8. 5 (土)	※参加者
<ul style="list-style-type: none"> • おかあさんと一緒に集団の中でふるまいながら集団の楽しさを味わう • 折り紙活動を取り入れる • 前回との活動を重ねながら集団のルールを理解し、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> • みんなで遊んだことの総復習 • 「がんばったね」賞のセレモニー 	親子15組 リーダー5名 L1: 方向性を出すリーダーの略
		考 察
		関 係 的 意 図
I みんなでまろく輪になる ① ぞうさんのように歩く ② ねずみさんのように歩く ③ お馬さんのように歩く ④ 「何のように歩いてみようか」と問いかける II 朝のあいさつ III 名前呼び活動	I みんなでまろく輪になる ① ぞうさんのように歩く ② ねずみさんのように歩く ③ 「ひらいたひらいた」をすすめる。→ 何の花にするか相談して決める」 II 朝のあいさつ III 名前呼び活動	<ul style="list-style-type: none"> • 課題媒介集団内自己安定の促進 • 物表演媒介集団参加へのウォーミング・アップ • 関係連結体験の促進 • 集団凝集体験の促進 <ul style="list-style-type: none"> • 課題媒介共有体験の促進 <ul style="list-style-type: none"> • 集団内親子単位焦点化による集団参加への促進 • 集団内自己参加体験の促進 • 物媒介共通課題個別活動の促進 • 親子相談活動体験の促進

<p>IV 親子でできる体操</p> <p>① 母と子で手をつなぎ回る</p> <p>② 親子で高い高い</p> <p>③ でんぐり返し</p> <p>④ コアラと木</p> <p>V フラフープリレー</p> <p>① 2組にわかれて、フラフープに親子ではいり、走ってもどってくるリレー</p> <p>② 1番の親子は2番の親子に親同士、子同士握手をし、順次確認しあう。</p> <p>VI 大型紙芝居</p> <p>① 手あそび「ひげじいさん」</p> <p>② 始まりと終わりに拍手をすること、静かにきくことを伝えて、全員で見る「ぐりとぐらのえんそく」</p> <p>③ トンネルづくり</p> <p>VII まるく輪になりダンスをする「むすんでひらいて」</p> <p>VIII 終わりのあいさつ</p> <p>あいさつのポーズを伝え、「さよなら」をみんなで言う。みんなで拍手をする。</p> <p>IX ①子どもたちは自由遊び(リーダーと一緒に)(15分間)</p> <p>② 親たちは、集まる、L1が3才児の特徴の話、5回シリーズの主旨の説明をする(5分間)2人1組になって、自己紹介をしあう(10分間)</p> <p>X 子どもたち片づけ</p> <p>親たち感想を書く(5分以内)書き終わった人から各自解散。</p>	<p>IV 親子でできる体操</p> <p>① 手をつなぎぐるぐる回る(メリーゴーランド)</p> <p>② 親子で高い高い</p> <p>③ でんぐり返し</p> <p>④ コアラと木</p> <p>⑤ お山とトンネル</p> <p>⑥ お馬の親子(音楽にあわせて)→かたたたき</p> <p>V フラフープリレー</p> <p>① 2組にわかれてフラフープに親子で入り、走ってもどってくるリレー</p> <p>② 確認の握手</p> <p>③ シートを使ったリレー。(前に母2人、後ろに1人シートをもち、シートの上に3人の子たちがのって、走るリレー)</p> <p>VI 製作活動</p> <p>① わっかづくりを親子でする。黒板に笹の葉を書き、そこにはる。</p> <p>② お星様のお面をかぶり笹の葉のうたをうたう。</p> <p>VII まるく輪になりダンスをする</p> <p>① 「手をたたきましょう」</p> <p>② 「大きな栗の木の下で」</p> <p>VIII 終わりのあいさつ</p> <p>あいさつのポーズを伝え、「さようなら」をみんなで言う。みんなで拍手をする。</p> <p>IX ①子どもたち、自由あそび、</p> <p>② 親たち集まる</p> <p>L1が3才児の運動機能の特色を話し、プリントを用意して室内親子体操を伝える。おとうさんの参加をうながす。(5分間)</p> <p>先回とは違う人と2人1組で自己紹介をしあう(10分間)</p> <p>X 子どもたち片づけ</p> <p>親たち感想を書く(5分以内)。終わった人から解散。</p>	<p>IV親子でできる体操</p> <p>① メリーゴーランド</p> <p>② 親子で高い高い</p> <p>③ でんぐり返し</p> <p>④ コアラと木</p> <p>V フラフープリレー</p> <p>① 2組に分かれて、1つのフラフープに親子が入り、リレーをする。</p> <p>② 2つのフラフープをはちまきでつなげ、汽車のようにして、それぞれに親子が入りリレーをする。</p> <p>VI 大型紙芝居</p> <p>① 親子のトンネルくぐりで移動する。</p> <p>② 「たろうのともだち」</p> <p>VII 製作活動</p> <p>① お花紙でお花をつくり、手につける。</p> <p>VIII まるく輪になり、ダンスをする。</p> <p>「手をたたきましょう」</p> <p>「大きな栗の木の下で」</p> <p>IX 終わりのあいさつ</p> <p>X ①子どもたちは自由あそび</p> <p>② 親たち集まり、L1が「基本的生活習慣」の一覧表の表を提示し、3人一組で話しあう(15分間)</p> <p>XI 子どもたち片づけ</p> <p>親たち感想を書く(5分以内)終わった人から解散。</p>
--	--	---

<p>IV 親子でできる体操</p> <p>① メリーゴーランド</p> <p>② 親子で高い高い</p> <p>③ でんぐり返し</p> <p>④ コアラと木</p> <p>⑤ お舟はぎっちらこ</p> <p>⑥ お山とトンネル</p> <p>⑦ お馬の親子・肩たたき</p> <p>V フラフープリレー</p> <p>VI 大型紙芝居「カメレオン」</p>	<p>IV 親子でできる体操</p> <p>①～⑦</p> <p>⑧ もう一度やりたい体操をききながら</p> <p>V フラフープリレー</p> <p>VI 大型紙芝居 「ペロペロキャンデー」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題媒介親子関係の促進 ・親子単位による自己身体活動の促進 ・親子単位，課題共有一斉体験の促進 ・小集団内親子活動の促進 ・課題共有親子単位活動の促進 ・集団分割による集団間関係体験の促進
		
<p>VII 製作活動</p> <p>① 折り紙で“カメラ”をつくる</p> <p>VIII まるく輪になり，ダンスをする。</p> <p>「手をたたきましょう」</p> <p>「大きな栗の木の下で」</p> <p>IX 終わりのあいさつ</p> <p>X ①子どもたちは自由あそび</p> <p>② 親たち 「基本的生活習慣」についての3人一組の話しあい「15分間」</p> <p>XI 子どもたち片づけ</p> <p>親たち感想を書く（5分以内）</p> <p>終わった人から解散</p>	<p>VII 製作活動</p> <p>① 折り紙で“だまし舟”をつくる。</p> <p>VIII まるく輪になりダンスをする。</p> <p>「手をたたきましょう」</p> <p>「大きな栗の木の下で」</p> <p>IX ①「頑張ったね賞」の授与</p> <p>②「思い出のカード」の授与</p> <p>X 終わりのあいさつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集団統合活動の促進 ・共有体験の促進 ・課題共有親子単位製作活動の促進 ・集団成果共有体験の促進 ・音楽媒介自己身体活動の促進 ・音楽媒介集団共有体験の促進 ・親子分化活動の促進 ・子集団，親集団自覚化への促進

を広げる。

⑦ 毎回活動の最後に子集団・親集団と分け、子集団は、リーダーと共に自由遊びをし、親集団は、リーダーからの3才児に関する資料やアドバイス、2人一組での話し合い活動をする。→親子分化体験

(2) 1～5回の関係

① 活動内容は、毎回新しいものを取り入れるのではなく、各回とも、1回目の活動内容に重ねながら、活動に変化をもたせ、少し新しいものを入れている。これは、3才児の年齢とも関係していて、繰り返しの大切さからきている。活動内容が同じでも、1回目と2回目、2回目と3回目では、受け止め方も違い、かかわり方も違う。関係学における『可能性の原理（自発性—創造性—生産性）』『相対的独立の原理（即在一並立—共存）』『肯定性の原理（受容—容授—受授）』『操作性の原理（関係体験—関係認識—洞察—関係操作）』とかかわり方を細かくとらえて幼児の変化を大切に与えるねらいがある。

4. 状況設定と関係の意図

(1) みんなで丸く輪になる活動

〔状況設定〕

① 全員で手をつなぎ、一つの輪になる。手をつないだまま、集団が動く活動を用意する。ぞうさんのようにノッシノッシと歩いたり、ねずみさんのようにチュチュといって歩く。さらに、輪が凝集したり、拡大したりして、集団の形の変化を楽しむ活動を用意する。

「ひらいたひらいた」など。

〔関係的設定の意図〕

- ① 課題媒介集団内自己安定の促進
- ② 物表演媒介集団参加へのウォーミング・アップ
- ③ 関係連結体験の促進
- ④ 集団凝集体験の促進

〔特色〕

① これから始まるという気持ちを育て、集団参加へのウォーミング・アップになっている。

(2) 朝のあいさつ

〔状況設定〕

- ① 丸く輪になり、リーダーが中央に位置し、あいさつのポーズを伝える。「足をそろえ、手を両脇に、お背中をピットする」
- ② 全員で行う。あいさつの後、全員で拍手をする。

〔関係的設定の意図〕

① 課題媒介共有体験の促進

〔特色〕

- ① 回を重ねるごとにポーズの形になれ、上手にできるようになる。
- ② あいさつのポーズを通して、みんなであいさつすることを楽しむ。
- ③ 終わった後の拍手は、どの箇所にも見られ、共有体験の節目になっている。

(3) 名前呼び活動

〔状況設定（1回目）〕

① 1回目は場所や人に慣れていないので、カードにシールを貼ったり、名札をつけたりと、名前を呼ばれて返事をする 것과作業をすることを用意する。

② カードの時は、リーダーが返事した所に届け、シールを貼り終わったら、リーダーに返しに来てもらい、名札の時は、呼ばれたら取りに来てもらうというように、幼児の動きを誘う工夫をする。

〔状況設定（2回目）〕

- ① 名前を呼ばれたら、返事をして、親子で動物のポーズをすることを伝える。
- ② 親子で何の動物になるか相談する。
- ③ 決まったかを全員に確認して、名前呼びをする。（「～ちゃんとおかあさん」）
- ④ 親子のポーズを写真にとる。みんなで拍手をする。
- ⑤ 回を重ねるごとにフラフラで焦点化したり、「ハイポーズ」とみんなで言ったり、工夫する。

〔関係的設定の意図〕

- ① 集団内親子単位焦点化による集団参加への促進
- ② 集団内自己参加体験の促進

③ 物媒介共通課題個別活動の促進

④ 親子相談活動体験の相談

〔特色〕

① 回を重ねるごとに、動物のポーズを親子で工夫して表現するようになる。

② 回を重ねるごとに、緊張がとれて、笑顔の顔のポーズになる。

(4) 親子のできる体操

〔状況設定〕

① メリーゴーランド(手をつないでぐるぐる回る)

② 高い高い

③ でんぐり返し

④ コアラと木(幼児がコアラになり、母にしがみつくと、母は木になり、だっこしている手を離したり、ゆさぶったりする)

⑤ お山とトンネル(母は四つん這いになり、幼児はくぐったり、登ったりする)

⑥ お舟はぎっちらこ

⑦ お馬の親子(幼児は母の背中にのり、母は馬になって、お馬の親子の歌に合わせて歩く)

〔設定の关系的意図〕

① 課題媒介親子関係の促進

② 親子単位による自己身体活動の促進

③ 親子単位課題共有一斉体験の促進

〔特色〕

① 回を重ねる毎に親も子も慣れて、上手になっていく。

② 身体接触や共に体を動かす体験を通して、親子で楽しむことを、再確認する。

＜感想から＞ 家に2人である時は、今日のように面と向かって何かをするということがあまりありませんでしたが、遊び方ってちょっと考えればいくらでもあるんだなぁと気がつきました。親も真剣に遊ばなくてはと思います。(Hさん)

(5) リレー

〔状況設定(フラフープを使って)〕

① 2つのグループをつくり、リレーをする。

② 親子でフラフープの中に入って、走って

戻って来て、次の親子に渡す。

③ 順番を親同士、子同士で握手をして確認し合う。

(応用編)

④ フラフープを二つ使って、はちまきでつなげて、汽車のようにして、それぞれに親子が入り、走って戻ってくる。

〔状況設定(シートを使って)〕

① 3組の親子で協力して行うリレーで、シートの前に親2人、後ろに親1人になり、シートを持つ。

② シートの上に3人の幼児が乗り、幼児たちを運ぶリレー。

〔設定の关系的意図〕

① 小集団内親子活動の促進

② 課題共有親子単位活動の促進

③ 集団分割による集団間関係体験の促進

〔特色:親子の動き(かかわり)〕

① 子の速度、親の速度を感じながら、走っている。子の速度が早い時には、親の方が押さえる走り方になり、親の速度が早い時には、子が転んでしまう場合があり、親子の速度を体験的に学んでいる。

② 我が子の楽しそうな様子を共に動きながら、観察し、共にの瞬間をとらえている。

＜感想から＞ 輪つなぎが楽しかった様で夢中でやっていました。…(Iさん)
シートの上に座って、お母さんたちがひっぱったのが、子供がとても楽しんでいるようでした。(Sさん) フラフープがとても楽しそうでした。(Tさん)

(6) 大型紙芝居

〔状況設定〕

① シートをひいて、そこに座って見る。

② 始まりと終わりに拍手をすること。静かにみることを伝えてから、始める。

〔設定の关系的意図〕

① 集団統合活動の促進

② 共有体験の促進

〔特色〕

① みんなで見るという体験を育てている。

② 絵を通して、物語のおもしろさを味わっている。

(7) 製作活動

〔状況設定（わかづくり）〕

① こちらで用意した紙で、わかづくりをする。

② 黒板に笹の葉を書き、そこにはる。

③ お星様のお面をかぶり、七夕の歌をみんなで歌う。

〔状況設定（お花紙でお花をつくる）〕

① 親子で2つつお花紙で花をつくる。

② 手につける。

〔状況設定（折り紙でカメラをつくる）〕

① 大きめの折り紙を用意して、親子で一枚ずつ持つ。

② ゆっくりやり方を実践しながら、おっていく。

③ できたら、カメラを試してみる。

④ （応用編）折り紙でだまし舟をつくる。

〔設定の关系的意図〕

① 課題共有親子単位製作活動の促進

② 集団成果共有体験の促進

〔特色：親子の動き（かかわり）〕

① ゆっくり親が子に伝えている。

② 親のするのを見ている幼児や幼児にやらせようと助けている親やかかわり方もさまざまである。

③ 幼児の意外な面を発見するきっかけになる。

＜感想から＞ 今回一人でお花を作ったのは、びっくりしました。（Oさん） 今日折り紙でカメラを作りましたが、思い通りに折れなくて、ぐちゃぐちゃに丸めてしまいました。子供の短気な面が気になりますが、これも成長過程かと思うので、気長にみてあげなければと思っています。（Mさん）

(10) ダンス

〔状況設定〕

① 丸く輪になり、音楽に合わせてみんなで踊る。

② 曲は「むすんでひらいて」「手をたたき

ましよう」「大きな栗の木の下で」

〔設定の关系的意図〕

① 音楽媒介自己身体活動の促進

② 音楽媒介集団共有体験の促進

(11) 終わりのあいさつ

〔状況設定〕

① 丸く輪になり、あいさつのポーズを伝え、みんなで「さようなら」を言う。

② 拍手をする。

〔設定の关系的意図〕

① 終結の節目をつくる。

(12) 子集団は自由遊び、親集団は、話し合い活動

〔状況設定〕

① 子集団は、リーダーたちと自由に遊ぶ。

② 親集団は、L1（方向性を出すリーダー）から3才児の特徴についての解説があり、その後、2人一組になって自己紹介や子育てについて、話をする。

③ 15分間と時間を決めて、かかわる。

④ 親集団が感想を書いている間、子集団は片付けをする。終わった親子から解散。

〔設定の关系的意図〕

① 親子分化活動の促進

② 子集団、親集団自覚化への促進

5. 親子にとっての集団活動の意義

(1) 幼児にとっての集団活動の意義

① 親子活動を通して、親子充実—親子共存—親子分化へとかかわり方が広がり、幼児にとって、ゆっくりとかかわり方をひろげることができる。

② 親子集団活動体験を親に支えられながら体験する。不安になっても安心できる人（親）がいて、幼児を受け止めてくれる人（親・リーダー）がいることにより、集団で共に過ごす楽しさを体験する。

③ リーダーたちの、どの子も集団の中に位置づくようなチームでのかかわり方を通して、幼児は、集団の中で大切にされている体験が育つ。自己安定、自己充実から、自己一人—物の接在共存状況へと集団体験を育てる。

④ 同年齢の人達がいることを認識し、共通体験を通して、友達づくりへのきっかけとなる。人の領域が、家族から同年齢の子へと広がっていく。

(2) 親にとっての集団活動の意義

① 集団の中の親子体験によって、親子の関係やかかわり方を再認識したり、再確認したり、再修正したりする場になっている。

＜感想から＞ 集団の中の我が子を見ていると、家で見るとはまた違った様子が見られ、とてもおもしろいと思います。3才というのは、かわいい反面、とても自我がでてきてむずかしいなあと感じます。輪の外の子供も認めてあげようという話をうかがって子供の心を認めてあげるのが大切だと思いました。お花づくりは、初めてだったので最初おそるおそるやっていたのですが、喜んで作っていました。すぐに母にたよってくるので、手をかけすぎかな？と反省しました。(Iさん)

② 我が子の違う一面を発見する。かかわり方の可能性をひろげるきっかけとなる。

＜感想から＞ 子供のいいな一面をのぞけ、毎回楽しみです。(Mさん) 今回ひとりでお花を作ったのはびっくりしました。(Oさん) 始めは中に入れなかった子が最後の自由遊びでイキイキと楽しんで遊んでいたのもしい思いがしました。知らなかった子供の一面を知った気がします。(Iさん)

③ 母親同士の仲間づくりのきっかけになっている。同じ年齢・子育てという共通の話題から広がって仲間をつくるきっかけとなる。

＜感想から＞ 早く他のお母さん方と仲良くなりたいです。(Sさん) 子供より、私の方が楽しみにしているようなところもあるかなと思います。

おわりに

「親子であそぶ集団あそび」は、同年齢集団に興味を持ち始める3才児の特色的活動ともいえる。この活動が自主子育てサークルの間でも気軽にできる活動へと進むことを期待している。プログラムを通して、どの人にも、自己も人も物も大切にしたい集団体験が育つためにも、さらに、この活動内容を検討してプログラム化ができればと考えている。

最後に、実践活動を主催していただきました加須中央公民館・騎西町中央公民館と参加し共に遊んだ3才児の親子たちに感謝致します。

＜引用・参考文献＞

1. 小原伸子・青木玲子「文教大学における関係学の展開—幼児集団研究会の活動を中心として—」関係学編集委員会編『関係学研究』第15巻 第1号 1987
2. 松村康平・板垣葉子「適応と変革」誠信書房 1960
3. 並木紀子・高橋浩子・児童集団研究会「集団指導の理論・技法・実践」『児童臨床学』1968
4. 松村康平「保育関係論」『保育学の進歩』フレーベル館 1977
5. 幼児集団指導研究会編「幼児の集団指導」日本肢体不自由児協会 1979
6. 小原伸子「幼児集団指導に関する関係学的考察」『人間科学紀要』第10号 1988
7. 佐藤啓子・小原伸子「人間科学における関係弁証法の展開(1)～(8)」『人間科学紀要』第1～第8 1979～1986
8. 佐藤啓子・小原伸子・青木玲子「人間発達についての関係学的考察XXV～XXXI」日本保育学会 第46回大会～第49回大会 1993～1996
9. 関係学会編「関係学ハンドブック」関係学研究所 1994